

## 我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立堅田小学校

### ○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 【結果について】

#### 《概要》

教科に関する調査では、全国の状況とよく似た傾向を示しています。全国的に課題とされる、国語の「書くこと」「漢字（同音異義語）を文の中で正しく使うこと」は本校でも課題となっています。算数においては、図形を扱う問題の正答率が低くなっています。児童質問紙調査では、「学校に行くのが楽しい」、「いじめを許さない」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答えた割合が高くなっています。

#### 《強み・弱み》

児童質問紙調査に「学校の授業時間以外に、普段一日あたりどれくらいの時間、読書をしますか。」という質問がありました。本校の子どもたちは、「2時間以上」もしくは「1時間半以上」と答えた子の割合が滋賀県、全国と比べ高くなっています。しかしながら、教科に関する調査では、国語、算数ともに文章が長くなると何を問われているのか理解することが難しくなる傾向があります。「基礎基本の徹底」とともに、今後も「読み解く力」の向上に努める必要があると考えています。

##### 『国語』

記述式問題は3つありました。問題①、問題②、問題③と進むにつれて、無解答率が上がっていき、正答率は下がってきます。質問紙では、国や滋賀県に比べて「解答時間が足りなかった。」という子どもが多くなっています。本校の子どもたちは、文章を読み込み、理解し、解答するのに時間がかかっているようです。また、漢字の書き取りの問題では3問とも国や滋賀県に比べて正答率は低くなっています。「読み解く力」とともに「基礎的な漢字力」をつけていく必要があると考えています。

##### 『算数』

文章量が少ない問題については、比較的正答率が高いのですが、問題文が長くなると、正答率が下がっています。問題文を正しく読み取れていないようです。また、図形領域の問題、商が1より小さくなる除法の計算問題に課題が見られました。算数でも、記述式問題では正答率が低くなり、問題文に合う解答となっていないものが多く見られました。

### 【指導の充実に向けて】

- ☆学びの基盤を確かなものにするため、今後も堅田小3つの約束（あいさつ・そうじ・聴く）を徹底していきます。
- ☆これまでも取り組んでいる月1回の「ロング基礎学習」の時間を大切に、学年の実態に応じて「書く」活動を積極的に取り入れていきます。これまでの取組で「書く」ことへの抵抗は少なくなってきているので、短時間で「書く」、条件に合わせて「書く」ということを意識して取り組んでいきます。
- ☆「読み解く力」をつけていくため、読書活動の定着・充実への取組（読み語り・隙間読書など）を続けていきます。また1学期、朝学習で行いました「読み解きプリント」の取り組みを、今後も大切にしていきます。
- ☆基礎・基本である計算問題や新出漢字の定着について、基礎学習の時間や家庭学習などで、繰り返し取り組んでいきます。
- ☆子どもたちの意欲向上、学力向上、読み解く力の向上に向けて、「学び合いの授業」「子どもの主体的な授業」「わかる授業」を目指し、より一層の授業改善に取り組めます。一時間一時間の授業を大切に、1年生からの積み重ねを大事にしていきます。
- ☆家庭・地域・学校で、子どもを認め褒める取組を進めていくことで、子どもたち一人ひとりが自己存在感を感じられるように取り組んでいきます。